

名城大学機械会誌

発行所

名古屋市天白区塩釜口1丁目501番地
名城大学理工学部機械システム工学科内
名城大学機械会
TEL<052>832 - 1151(代)
FAX<052>832 - 1235
URL:http://meijo-rikou-dousoukai.jp
/kikaikai/index.html

名城大学機械会第54回総会のご案内

下記のように第54回総会を開催します。
会員諸氏の多数の御出席を心よりお待ちしております。

名城大学機械会 会長 渡辺 治比古

日 時 平成23年 6 月19日(日) 9:30~10:10
場 所 名城大学 天白キャンパス 共通講義棟南館 S402教室
議 題
・平成22年度事業経過報告および会計報告
・平成23年度事業計画案および予算案
・その他

なお、終了後理工同窓会総会、記念講演会、懇親会が開催されます。



新春交流会 第1部 講演会

名古屋大学准教授 大西丈二先生(左側)
による「認知症にならない日常健康管理」
の講演

新春交流会 第2部 アトラクション

シンガーソングライターえみさん(右側)
によるピアノ弾き語り、歌のコンサート



ご 挨拶

会長 渡辺 治比古
昭和57年卒



東日本大震災に被災された方々へ心からお見舞い申し上げますとともに、少しでも早い復興をお祈り申し上げます。

機械会会員の皆様におかれましては、日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日ごろより機械会の諸活動にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年は一昨年の不況から各企業は新しいことに取組んだ1年だったと思います。政権は自民党から民主党に変わりはしましたが、相変わらず雇用状況は改善されず、学生にとっては大変厳しい就職戦線だったと思います。3月1日に起きた東日本大震災から日本経済は、いまだ混沌とした状況にあります。現地での復興報道や世界中からの日本に対する支援、またスポーツ選手をはじめとする各方面からの「自分たちが出来ること」を聞くたびに心が温まる思いがします。

例年の挨拶では、1年間の活動報告をしています。最近では梅本先輩さんがホームページにて、充実した新しい情報を発信していますので、ここでは割愛させていただきます。

詳しくは下記 URL にアクセスをお願いします。
<<http://www.meijo-rikou-dousoukai.jp/kikaikai/index.html>>

欄外にご案内させていただいておりますが、毎年新春交流会を開催しています。

今年も大橋理事長、下山学長をはじめ多くのご来賓ならびに大学関係、同總會の方々、そして会員の皆様にご臨席いただき、第10回機械会の新春交流会を迎える事が出来て、大変嬉しく思います。

今年で10回目を迎えますが、「継続は力なり」物事は始まりがあって初めて継続も生まれます。

提唱された梶田前会長は、当初、賀詞交換会として名刺を交換する場と会社PRや個人の情報を交換する場として始めました。しかし今年も、名古屋大学の西丈二准教授を迎え「認知症にならない日常健康管理」の講演を行うと共に、シンガーソングライターえみさんのコンサートを加えた楽しい企画を行いました。名城節合唱では応援団のOBに参加で、1年の始まりにふさわしい迫力ある歌声が響きわたりました。会員の皆様により良い情報が提供できる場として今後も続けて行きます。

最後に、私の嬉しかった話をします。私は最近会社の業務で中国に行く事が多くなりました。当然中国語なんて喋れないし、中国に友人・知人がいるわけではありません。でも何度か足を運ぶ上で知人が出来るようになりました。彼は昭和61年交通機械科卒業生です。他にも多くの卒業生にも逢う機会にも恵まれましたし、紹介も頂きました。名城大学の卒業生であるだけで、名城大学の卒業生は本当に親身になって協力してくれると私は思います。彼のおかげで私の仕事は順調に進んでいますし、遠い異国の地で心和やかな気持ちになれます。機械会の卒業生は約1万3千人います。アメリカ、ヨーロッパ、中国、タイ、インドネシアなど世界の各地で皆さん頑張っています。人と人の縁はちょっとしたことで始まります。胸をはって自分から「名城大学の卒業生です」と伝えてください。きっと人の輪が広がります。是非今年には多くの輪を作ってください。

加油日本！（頑張れ日本）

名城大学機械会第11回新春交流会開催のお知らせ

1. 日 時：平成24年1月28日（土） 時間は未定
2. 会 場：名古屋ガーデンパレス（名古屋市中区錦3-11-13）
3. 会 費：未定
4. 問合先：渡辺 治比古（機械会会長）

TEL 090-9126-3757 メール watanabeh@shinmei.co.jp

詳細につきましては12月初旬ホームページにてご案内します

URL:<http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kikaikai/index.html>

機械システム工学科の近況報告

機械システム工学科
学科長 藤山 一成



平成 23 年度の学科長を新たに務めさせていただきます藤山です。どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、東日本大震災におきまして被災

された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、機械会の皆様と一体になり少しでも支援につながるような活動を進めていきたいと考えております。

また、昨年 12 月には、熱システム分野で長年ご指導いただき退職された佐藤進先生がご逝去されました。謹んで追悼の意を表したいと思います。

さて、平成 22 年度は、小島晋爾前学科長のもと順調に推移して参りましたが、現在、本学科をとりまく環境が変化しつつあり、機敏で柔軟な対応が求められています。

変化の第一は、学部の改組に向けての動きであり、機械システム工学科もその中心的役割を担うこととなりますので、学部や他学科との情報交換を密にして、変えるべきところは変え、中核的価値となる部分は軽々には変えないというスタンスを堅持していきたいと思っております。

また、社会経済情勢の変化のなかでも、産業基盤を担う機械工学の重要性がますます高まることは確実ですので、社会の要請に応えうる人材の育成に一層力を注いで参りたいと思っております。そのために、学習・教育目標やカリキュラムを含む実施内容について常に改善を怠らないようにしたいと思います。これは、来年度予定の J A B E E 中間審査に向けた対応としても重要であると考えております。

就職に関しましては、平成 22 年度卒業生は、昨今の厳しい状況下でも学部生・院生ともに就職率 100% を達成し、立派な成績を上げることができました。しかしながら、中部地区のエネルギー供給面での不確定要因などから、今後さらに状況の変動のあることも予想されますので、就職委員の江上登先

生を中心に気を引き締めて学生に対するきめ細かい指導を行っていきたくと考えています。厳しい経済情勢は就職ばかりでなく、学業を続けることを困難にするケースの増加にもつながりますので、クラス担任や各研究室の指導教員が、こまめに相談に乗っていくことを徹底していきたいと思っております。

昨今、大学院への進学率も上昇傾向にありますが、これを経済情勢の変化に伴う一時的変動のみに終わらせず、自立した技術者として活躍できる人材をより多く社会に送り出すため、大学院における教育力と研究力の向上を目指していきたいと思っております。文部科学省からも大学院の実質化が強く求められていることから、これに応えることのできる目標の設定と達成の仕組みを作り上げていきたいと考えています。

なお、平成 23 年度から、來海博央先生が教授に昇格され、教授 12 名体制となっております。また、若い先生方も増え、フレッシュな発想で大いに活躍していただいております。今後の発展が期待できます。さらに学科を越えたレベルでは、平成 23 年度からの中根新学長体制のもと、小林明発先生が副学長に就任されました。これは本学科にとっても画期的なことであり、理系学部の声を聞いていただけるまたとない状況になっています。

以上、取り上げましたさまざまな課題は、私ども教員のみでは到底対処し得るものではなく、機械会と学科が一体となって取り組んでいく必要があると考えております。先輩諸氏と現役学生と教員の力を合わせることで大きな力となることは他大学の例を見ても明らかであり、社会で立派に活躍されている先輩方と現役との触れ合いと協力の場をできるだけ増やすことが重要であると考えています。教員としても現役生に対する働きかけを強めていきたいと考えており、それが機械会の発展の一助になることを念願しております。

海外赴任事情...「中国 大連 編」

大野 達也
昭和57年卒



自分は中国、大連に2008年1月より赴任して既に3年が経過しました。機械会会員の多くの方が海外で活躍していると思います。そんな中、赴任先の大連を紹介します。

都市中心部の人口は約211万人で、名古屋より若干少ないですが、面積は名古屋に比べるとはるかに小さな都市です。街の歴史は120年ほどで中国の中にあっては新しく、旧ロシアの町並みではなくパリをモデルに造られています。そのため、至る所に「公園・広場」といわれるロータリーがあり、中国の他の都市とは異なった雰囲気があります。また、日露戦争後40年間、租借地として日本が都市整備を実施したので、名残が至る所に見受けられます。

気候は日本と同じで、四季がはっきりしています。さて、自分は名城大学卒業後、地元の「富士精工」に入社しました。会社は転勤の無い所を選んだつもりでしたが、入社後すぐに、海外に工場等を建設した関係で、海外赴任となりました。実は、大連には1995年から97年まで駐在経験があり、今回で2回目の駐在です。一回目の駐在時に比べ、現在の生活状況は格段に良くなっています。

95年当時は、日本的なスーパーマーケット、コンビニ等は無く、野菜市場、肉市場などへ出向き食料品を調達しなければならず、生活の為に中国語

は必須でした。しかし、現在の大連市内は日本人も多く、中国語を話せなくても生活できるような環境になっています。当時苦労したことで言葉が話せるようになり、今は大変役立っています。

仕事に関しては、文化や考え方の違いもあり、いまだに苦労しています。思いもよらぬ事が起きるのが中国です。

しかしながら、中国国内の「元気な状態」は一度中国へ足を運ぶと解ると思います。非常に活気があり、活力を感じます。中国での物価上昇はすさまじいものです。これに伴い、給料の上昇も激しく目覚ましい変化をしている最中です。

日本では、経済危機の後、東北大地震により更にダメージを受け大変な状況だと思います。大連の会社としても、ささやかながら会社と従業員からの個人義援金を、赤十字社を通して寄付させていただきました。少しでも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

申し遅れましたが、自分は大連にある合弁会社「大連富士工具有限会社」の責任者として、会社名通りの「工具」、特に自動車業界向けの切削加工工具を提

中華人民共和国 遼寧省 大連市



中山広場



遼寧省中の大連市の位置

大連市の位置



大連市内の路面電車



大連の「桜の花見」

供しています。会社での生産のほとんどは中国国内の各自動車エンジンメーカーおよび自動車部品加工メーカーに販売しています。中国国内出張した際は、名城大学のOBの方に会うこともあり、多くの名城卒業生が海外で活躍しているものだと感じています。機械会誌を読まれたOB各位の方で、一度中国へお

越しの際は、是非、一番日本寄りにある「大連」から入っていただくと現状を実感して頂けると思います。その時は自分が色々な大連事情をガイドいたします。

脈絡の無い文で申し訳ありませんが、大連での仕事、生活の状況を報告させていただきました。

機械会 新春交流会について

梶 田 正 勝
昭和42年卒



去る1月29日(土)18:00から第10回 機械会新春交流会がホテル名古屋ガーデンパレスにて開催された。今年は10周年の節目の年であり、大橋理事長、下山学長、安藤理工学部長はじめ機械システム工学科の先生方 及び 機械会の会員多数が参加し、講演会、懇親会の2部制により、盛大に開催された。

第1部 講演会

名古屋大学総合保健体育科学センター 特任准教授の大西文二先生から「認知症にならない日常健康管理」という演題で講演された。我々年取っていく過程で、認知症にならないために、認知症になるのを少しでも遅らせるために、会員一同熱心に拝聴した。席がないほどの盛況ぶりであり、質問が多く、質問に答えていただく時間が少なく、懇親会場で、先生に質問したりしていた。

第2部 懇親会

今年も「機械工学科の先生方、卒業生、準会員の在学生 相互の連絡、親睦を高め、隆盛発展に寄与する機械会」の理念の下、我々の仲間は縦横の絆を密にして、相互に情報を交換・共有し、ビジネスに結びつける場、更なる友好を深める場として、一人でも多くの人に出会い、交流し、旧交を深め、親睦を深める目的で開催された。かなりの年配の諸兄から、大学院生まで幅広い参加者であった。懐かしい友人、先生との再会により、学生時代の話、最近のビジネス状況、景気動向、就職・求人など 話 は尽きなかった。

また 今年 シンガーソングライターであり、美人(?)の えみ さん によるピアノ弾き語り、歌を歌ってもらい、違った面での盛り上がりもあった。

思い起こせば、10年前 私が森元会長の後を受け、機械会の会長を仰せつかった時、何かもっと会員へ

のサービスはないか?と考え、機械会評議員の皆さんといろいろ話し合いをしました。当時 機械会全会員へのサービスは、機械会誌送付による活動報告、同窓生の活躍状況、機械システム工学科の近況などを報告。これのみでした。そこで 今までの機械会評議員による新年会を発展させ、新たに「新年賀詞交換会」を始めることにしました。第1回は平成14年1月19日(土) 八事マリベリーホテルで行いました。藤本哲夫理工学部長先生(当時) 福田康明機械システム工学科長先生(当時)はじめ、全機械システム工学科の先生 及び 機械会会員約50名、総勢80名の皆様方に御出席いただきました。準備不足もありましたが、機械会評議員さんのご努力により盛大に行うことが出来ました。第2回は平成15年1月18日に、1ヶ月前に完成した名城大学のタワー75で、この建物の見学会を兼ね、15階レストランで行いました。この回から、自分や会社のPRを行う企画も行っております。第3回以降は名称を「新春交流会」と改め、毎年新春に現在に至るまで開催されております。

この新春交流会で、出会い、語り合っ、ビジネスに結びついた方々もおられ、大変うれしく思っております。私も懐かしい友人との再会を楽しみにし、毎年参加しております。

最後になりましたが、今回の新春交流会が10周年ということで、言い出しっぺの私に感謝状をいただきました。有り難うございました。



梶田前会長(左側)への感謝状・記念品の贈呈

第 4 回 名城大学機械会「機械会賞」授与式

平成 22 年度 [第 4 回]

名城大学「機械会賞」受賞者

(平成 23 年 3 月 18 日 受賞)

学年	学籍番号	氏 名	所属研究室
4	070427029	木下 直紀	流体・宇佐美ゼミ
4	070427358	安藤 晃	生産・小林ゼミ
4	070427595	早川 徹	設計・大槻ゼミ
4	070427726	小田 勇輔	制御情報・井村ゼミ
4	070427766	永田 健二	熱・松田ゼミ
4	070427801	市川 拓人	固体・来海ゼミ



第 4 回「機械会賞」受賞者 2011.3.18

第 3 回機械会杯ゴルフ大会開催について

昨年(平成 22 年)の 10 月 31 日(日)に第 2 回機械会杯ゴルフ大会を行いました。S31 年卒の宮澤先輩をはじめ 19 名の方々に参加されました。前日の台風接近で開催も危ぶまれましたが、天候も回復し白熱した大会となりました。今回も 42 年卒パワーが炸裂、服部隆一先輩が優勝、惜しくも宮澤先輩が準優勝でした。

今年も第 3 回目を開催予定します。多くの会員皆様の参加をお持ちしています。

1. 日 時：平成 23 年 10 月下旬～11 月上旬ごろ
2. 場 所：未定
3. 出場資格：機械会会員及びその家族と同窓会関係者
4. 会 費：未定 [プレー+参加費 ¥20,500 (昨年実績)]
5. 競技方法：ダブルペリア方式(生年月日記入) 競技終了後 表彰式を行います。
6. 申し込み：メール及び F A X にてエントリーください。
7. 締め切り：**平成 23 年 9 月**ごろご案内 担当：藤井・小杉

【問合わせ先】 Tel : 090-9126-3757 Fax : 0565-28-5483 [機械会会長：渡辺治比古 (S57)]

E-mail : watanabeh@shinmei.co.jp

9 月初旬ホームページで詳しくお知らせします

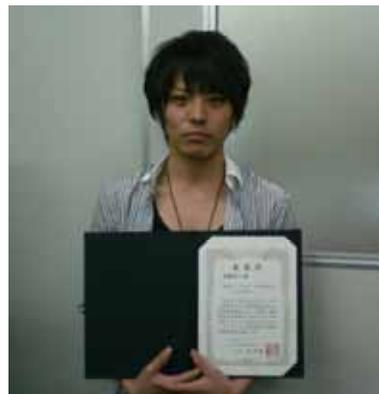


トピックス

日本材料学会第 59 期学術講演会
優秀講演発表賞受賞

機械システム工学専攻【固体システム分野 / 来海研究室 若園零二 君】

北海道札幌市にある北海道大学にて開催された日本材料学会第 59 期通常総会・学術講演会におきまして、名城大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻の若園零二さん（当時、修士 1 年）が優秀講演発表賞を受賞しました。この賞は、総会・講演会におきまして満 35 歳未満の発表者のうち優秀な発表に対して贈られる賞で、全国で 8 名の大学院生、大学関係者が受賞し、その中の一人に若園さんが選出されました。発表題目は「ハード系 PZT における機械的疲労によるき裂進展挙動」で、機能性材料である圧電セラミックスに繰返し機械的荷重が作用した場合の疲労き裂の進展特性を明らかにした成果を発表しました。



受賞した若園君

発表題目「ハード系 PZT における機械的疲労によるき裂進展挙動」

若園零二（名城大） 晝河和希（大同特殊鋼） 野々山晃彰（名城大） 白木原香織（鈴鹿工専） 来海博央（名城大） 田中啓介、木村雅彦（村田製作所） 榊千春、奥山幸治、中村玄徳

トピックス

日本材料学会東海支部第 5 回学術講演会
優秀講演賞（学術部門）受賞

機械システム工学専攻【固体システム分野 / 来海研究室 小澤雅典 君】

2011年3月7日（月）に名城大学 名駅サテライト（MSAT）（名古屋市天中村区 名古屋駅前SIAビル13階）で開催されました日本材料学会東海支部第 5 回学術講演会におきまして、名城大学大学院理工学研究科機械システム工学専攻の小澤雅典君（当時、修士 1 年、来海研究室）が優秀講演賞（学術部門）を受賞しました。この優秀講演賞は、30 歳未満の発表者のうち優秀な発表に贈られる賞であります。本講演会では 25 件の対象となる発表があり、他の受賞者は、名古屋大学ならびに名古屋工業大学の大学院生でありました。受賞した講演題目は以下の通りです。内容は、近年の電子基板等に使用されている鉛フリーはんだのき裂進展の評価方法として、J 積分だけでなく、き裂先端の特性を表すパラメーターを提案し、き裂進展速度との関係を明らかにした成果を発表しました。



受賞した小澤君

発表題目「鉛フリーはんだクリープ疲労き裂における J 積分と
き裂先端局所パラメーターの関係」

小澤雅典（名城大院） 田中啓介、来海博央（名城大）

2011年度 機械システム工学科就職状況

機械システム工学科

就職担当 江上 登



本年度の就職担当として、機械システム工学科および大学院機械システム工学専攻の就職状況と動向を報告します。

まず、最初に、名城大学を巣立って、東北圏でご活躍されている学友の皆様方におかれま

しては、今回の東日本大震災で被災された方もお見えになると存じます。紙面をお借りしまして、心よりお見舞い申し上げます。

さて、前就職担当の大道先生からバトンタッチしたのが一昨年の 12 月。2010 年度は学生数が多い年であり学部生で卒業予定者 210 名。大学院生 30 名の合計 240 名でした。100 年に一度の大不況、大学就職大氷河期といわれる中でも、苦戦はしましたが何とか全国平均をかなり上回る就職決定率を維持しながら最終段階を迎え、最終的には大学院生、学部生ともに 100% を達成することができました。全国平均が 80% 以下といわれる中でこの数字は、機械工学科、機械システム工学科、大学院機械システム工学専攻を卒業・修了されて社会で活躍されている多くの先輩諸兄によるところ大であると感じております。

今年度は東日本大震災の影響で、トヨタ系企業をはじめ、多くの企業で就職選考を 6 月以降に延期したこともあり、現在のところ 15% 程度の内定率であります。それでも JR 東海、スズキ自動車、大同特殊鋼、浜松ホトニクス、山崎マザック、アスモ、中菱エンジニアリング、住友電装、大同メタル、敷島製パン、キンデン、CKD、TTDC といった企業から内定をいただいております。6 月に入りましたら(この会報がお手元に届くころには)本格的な就職活動期に入っていると思います。

実際には、一人の大学院生は自由応募で選考を受けた大手企業 5 社からすでに内定をいただいたのですが、本命の会社(大学推薦)が 6 月以降に選考開始のため、内定した会社はすべてお断りしなければならない状況にあるなど、何人かの学生からも同じようなことの報告を受けています。いくつかの企業が、東日本大震災の影響で選考を遅らせたことが、就職難に拍車をかけかねない状況にあるといえます。大震災が起こったことで選考を延期する必要があったのか、判断は難しいところです。

ところで、今年度も多くの企業の方が大学を訪問してくれていますが、大手企業の人事担当者の、「近隣の私学の中では名城大学に求人を出しているだけです」との言葉は大変うれしい限りであります。しかしながら、就職活動の実情は、多くの学生が第

一希望の企業に就職できなかったことも昨年までと同様に事実であり、学生の更なる意識の高揚が必要であると痛感しています。また、学生は学校推薦で就職試験に臨みたいと申し出る件数が多くなりました。これは「就職大氷河期」の言葉が学生に浸透して、危機意識が増大したことによるものと考えられます。

採用動向としては、一流といわれる企業は、昨年度と大きくは変化しておりませんので、力のある学生にとってはあまり心配する必要はないようにも考えられます。世間の風評に一喜一憂することなくしっかりと自力をつけること、特に、自分の頭で考える習慣を持つことが就職難を乗り切る最良手段と思えます。

個々の状況は下にも紹介しますが、2010 年度はトヨタ自動車からは採用をいただくことができませんでした。しかしながら、三菱重工、デンソー、JR 東海、スズキ自動車、京セラ、JR 東日本、豊田合成、アイシン精機をはじめとする学生に人気の高い多くのトップ企業から内定をいただくことができました。学科としては、引き続きこのような企業から採用していただけるような、粘り強さを兼ね備える知の育成が最大の課題といえます。あわせて、バランスの良い就職指導、企業との地道なチャンネルづくりが景気の動向に左右されない就職支援の本質と考えております。

今年度の 4 年生は卒業見込みの学生が約 150 名、大学院生が約 50 名です。

最後に、今年度の大学院進学者は約 60 名でありました。大学・大学院 6 年教育の観点から、大学終了後の大学院進学を勧めています。なかなか 30% の進学率には手が届かない状況です。この点も変えていかなければならない重要な事項であります。

2010 年度 内定企業抜粋

【大学院】

JR 東海、デンソー、三菱重工、京セラ、スズキ自動車、アイシン精機、アイシン AW、豊田合成、山崎マザック、ジェイテクト、トヨタ紡織、リンナイ、愛知機械工業、THK、シンフォニアテクノロジー、大学院博士課程進学 他

【学部生】

アイシン精機、アイシン AW、アイシン AI、アンデン、シロキ工業、大同メタル、JR 東海、JR 東日本、豊田合成、ノリタケカンパニー、オオクマ、マスプロ電工、シロキ工業、中菱エンジニアリング、トヨタ紡織、フタバ産業、アドビックス、トーエネック、矢崎総業、井上金属工業、協豊製作所、豊生ブレーキ、フジパン、山崎製パン 他

平成22年度事業報告

平成 22 度の事業経過は以下の通りです。

1. 名城大学機械会誌第 44 号を発行し、会員各位に送付した。
 2. 名城大学機械会第 53 回総会を次の通り開催した。
 - ・日時：平成 22 年 6 月 20 日（日） 9:30～10:20
 - ・場所：名城大学共通講義棟 S - 402 講義室
 - * 審議・報告事項*
 - (1) 渡辺会長挨拶の後、平成 21 年度事業報告および会計報告がなされ、承認された。
 - (2) 平成 22 年度事業計画（案）および予算（案）について審議し、承認された。
 3. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画
 4. 平成 22 年度 第 10 回機械会「新春交流会」が 90 余名の出席者のもと、盛況裡に開催された。
 - ・日時：平成 23 年 1 月 29 日（土）(18:00～21:00)
 - ・場所：ホテル名古屋グランド（中区錦 3）
 - *今年度の「新春交流会」は昨年同様二部構成として開催された。
- 部行事：講演会（18:00～18:45）**
- ・講師：大西 丈二 氏
- 名古屋大学総合保健体育科学センター特任准教授
- ・演題：「認知症にならない日常健康管理」
- 部行事：交流パーティー（19:00～21:00）**
- 記念の第十回開催を迎え、大橋理事長および下山学長より来賓祝辞をいただいた。また第一回開催（平成 14 年 1 月）より多大な尽力をされた、梶田正勝・前会長に渡辺会長より感謝状と記念

品を贈呈した。

5. 次の学生行事に対し援助を行った。
 - (1) 名城大学機械会杯(第 41 回)&機械工学科長杯 争奪ソフトボール大会(10.8.27)への援助
 - * 前田副会長が出席して挨拶および始球式を行い、親睦会において、優勝チーム（福田ゼミ）に賞状、機械会杯および優勝旗が授与され、準優勝チーム（塚田ゼミ）および 3 位チーム（前田ゼミ）にそれぞれ、賞状および副賞が手渡された。
 - (2) 日本機械学会東海学生会・第 40 回「畠山杯争奪ソフトボール大会」への援助。
 - * 10.10.23（土）愛知工業大学グランドで開催され、福田ゼミ中心チームが見事優勝を飾った。後日、優勝賞状・優勝杯が披露された。
 - (3) 平成 22 年度卒業記念パーティー(11.3.18(金)、於名古屋グランド)への援助。
 - * 祖父江副会長が出席して卒業生に対し祝辞を述べるとともに、第 4 回「機械会賞」として、優れた学生 6 名に賞状および記念品を授与した。
 - (4) 準会員（在校生）へ機械会誌「44 号」を配布した（上記 5（3）卒業時(11.3.18)）。
6. 機械会役員会・評議員会の開催平成 22 年度において、1 回の役員会（平成 22 年 9 月 21 日(火)）および 7 回の評議員会（平成 23 年 2 月 26 日(土)最終）を開催し、種々審議を行った。

平成23年度事業計画（案）

本会会則に掲げる本会の目的達成に必要な事業を行うほか、本年度は特に次の事業を中心として活動する。

1. 名城大学機械会誌第 45 号を発行し、会員各位に送付
2. 機械会評議員会および役員会の開催
3. 名城大学機械会第 54 回総会開催
4. 平成 23 年度(第 11 回) 機械会「新春交流会」開催
5. JABEE に伴う外部評価委員会の活動への参画

6. 次の学生行事に対し援助を行う
 - (1) 名城大学機械会杯(第 42 回)&機械工学科長杯 争奪ソフトボール大会
 - (2) 日本機械学会東海学生会・第 41 回畠山杯争奪ソフトボール大会
 - (3) 平成 23 年度卒業記念パーティー
7. 準会員（在学学生）へ機械会誌「45 号」を配布
8. 平成 23 年度「機械会賞」の贈呈
9. その他